（第三種郵便物認可）　中国

「世界的講座」へ評価上々

広島市立大の「ヒロシマと平和」海外受講者最多

米英2校が単位認定

広島市立大（安佐南区）が八月六日をはさんで開く短期集中講座「ヒロシマと平和」の海外受講生が年々増えている。五年目の今年は十一カ国から過去最多の二十九人が来日。米国と英国では受講した学生に単位を認める大学もある。担当する教授陣は「世界的な平和講座にしたい」と意気込んでいる。（岡田浩平）

井上教授（右端）の講義を熱心に聞く欧米やアジア、日本の学生たち

米英のほか、韓国、中国、スウェーデン、ポーランドから来日した二十九人は、二十七日から本格化した講座を市立大生二十四人とともに学んでいる。この日は国際学部の井上泰浩教授＝マスメディア論＝が、国際関係におけるメディアの役割について、ニュース映像や写真、記事を交えて説明した。

韓国出身で米ハワイ大三年の黄圭鈴さん(21)は「平和へのアプローチ方法は、どんな文化を持っているかで異なると思う。そこをしっかり学びたい」と意欲を示した。

講座は八月七日まで続け、すべて英語でやりとりする。各国の原爆観や異文化の相互理解、持続可能な開発など、平和を広い視野でとらえてカリキュラムを組んでいる。ハワイ大や国連訓練調査研究所（UNITAR）の専門家も講師を務める。被爆者との対話、六日の平和記念式典への参列もある。

集中講座は、学術協定を結んでいるハワイ大マノア校からの打診がきっかけ。被爆地の大学として海外に何を発信すべきかを検討し、二〇〇三年に「ヒロシマと平和」を開講した。マノア校は〇五年、受講を単位認定する正式科目にした。

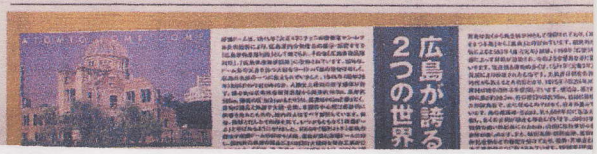
〇五年には、それまで特段の交流がなかった英ロンドンのメトロポリタン大紛争解決・平和学科が教授と学生を派遣。講座内容を「ワールドスタンダード（国際標準）」と高く評価し、同学科も正式科目に採用した。〇六年からは学生を選抜して送りこんでいる。

井上教授は「アカデミックな講義と、被爆地ならではの『情』の部分の相乗効果で、平和研究を深めることができる。世界中の大学に平和講座として提供したい」と話している。

熱射病？2

北九州　保育園

二十七日午後五時半ごろ、北九州市小倉北区の中井保育園近くの駐車場で、送迎用ワゴン車で子供がぐったりしていると消防に連絡があった。同区朝日ケ丘の会社員浜崎健太郎さん(30)の長男で、同園に通う暖人（はると）ちゃん(2)。救急隊が駆け付けた時は脱水症状で、病院に運ばれたが死亡が確認された。

暖人ちゃんは約三時間半、車内に取り残されていた。熱射病と小倉北署は業死の疑いもあ保育園関係者事情を聴いて

調べでは、十七日午前、園児二十人を北区内の公園た。午後一時ゴン車で三回児を乗せて園園児は保育園ったが、暖人内に残ってい